





陸羽巡迴報告書

大藏省



陸羽巡迴報告書

縣ニ趨キ或ハ逆旅ニ淹滞シ或ハ郡村  
 ヲ歴觀シ至ル處首領シテ士族ノ方尚  
 ヲ察シ又由シテ縣治ノ得失人民ノ勤  
 惰等ニ留心甚時アツテハ上之ヲ縣官  
 ニ質シ時アツテハ下之ヲ士人ニ問ヒ  
 或ハ密負ヲ各處ニ遣リ其事情ヲ探偵  
 セシム蓋シ卓ウ縣官ニ面スル中請閑  
 漫遊スト稱シ或ハ彼以家ヲ就キ或ハ



之ヲ卓ノ旅寓ニ招キ相往来シテ共ニ  
其心事ヲ語ル卓カ先キニ之ヲ縣官ニ  
凌ケシヲ以テ縣治ノ艱ナル牧民ノ難  
キ彼亦其襟懷ヲ披テ腹心ヲ語スルニ  
至ル其士族等ニ接スルモ亦賜閑濔游  
ストナシ或ハ姓名ヲ変シテ無官ノ者  
ト偽リ共ニ時事ヲ談シ或ハ平素生計  
ノ談ニ涉リ其未遂ニ彼ヲシテ胸裏ヲ  
吐露セシメ以テ其地ノ形情ヲ探知ス  
ルニ至ル然リト雖モ衆人ノ説クトコ



口各異同ナキ能ワス故ニ其尤モ證尤  
アル者ヲ釋ヒ每縣系ワテ其概要ヲ記  
シ附スルニ卓カ鄙見ヲ以テシテ之ヲ  
進呈ス抑東北ノ國タル土地廣漠ニシ  
テ戸口甚々多カラズ人民賴テ以テ生  
計ヲ為シ易ク風俗自ラ懶惰ニシテ勉  
勵セズ又其貧困ニ安ニシ富ヲ希フノ  
意アルヲ鮮シ然リト雖モ其地ヤ農桑  
諸鑛其他物産ヲ出スヘキ地タルヲ以  
テ漸次民ニ教ルニ利ヲ興シ家ヲ富ス



ノ術ヲ以テシカヲ耕織ニ用ヒ心ヲ工  
藝ニ尽サシメハ物産繁殖シテ我皇國  
ノ富強シト今ニ陪スルニ至ラン故ニ  
尔後縣官ヲ擇フハ第一ニ陸羽ニ於テ  
シ之ニ附其スルニ又多少ノ權利ヲ以  
テシ從テ錢多ノ財本ヲ費シ勉テ物産  
ヲ興隆スルヲ專ニシ縣令ヲシテ永  
ク任所ニ在ラシメ事ヲ多般ニ要セス  
民ヲシテ貧ヲ厭ヒ富ヲ希フハ心ヲ起  
サシムルノ道ニ盡カセシムルニ如カ

ス概シテ之ヲ言ハハ人民蒙昧鹵莽唯  
祖先ノ遺業ヲ墨守スルヲ知ラ新ニ産  
ヲ興起業ヲ建ルヲ欲セス又書ヲ讀  
ム事ヲ講スル者甚稀ナリ之ヲ實際ニ  
聞ク者公布書ヲ讀ミ其意ヲ解スルモ  
ノ商工凡五百人中僅ニ五六名ニ過ク  
農漁中僅ニ千ノ二三ナルノ故ニ朝  
省遍ク下ニ透徹セズ人民自ラ法憲ヲ  
犯シテ其罪ヲ知ラサルモノ往々之ヲ  
リ又士族ノ内位賀縣下動搖ノ件ヲ聞



クニ及ニテ俄ニ家禄奉還ノ願ヲ支フ  
ル者アリ蓋シ其意暴徒ノ勢焰益盛ニ  
ナルニ至ツテハ天下ノ士族方サニ蜂  
起シ一般封建ノ旧ニ復セシヲ希望ス  
レハナリ其惑ハル亦甚シ嗚呼此ノ如  
キノ民ヲレテ開明ニ導カントスル亦  
易キニ非ズ卓ノ見ルトコロ大率此ノ  
如シ其仔細ニ至ツテハ紙筆ノ能ク之  
ヲ悉ストトコロニ非ズ故ニ面シアタリ  
之ヲ口陳セシ言ハルハ有難事也

明治七年第四月十日  
大藏省五等出仕大江卓  
官城縣  
該縣ハ旧仙臺領ヲ分割スル地タルヲ  
以テ士族ノ多キ他縣ノ比ニ非ズ然レ  
氏旧来士氣豪情ニシテ凡百ノ事為ニ  
於ルモ奮勵ノ志アルヲナシ故ニ戊辰  
ノ年反正ノ師起ルニ當テ藩主伊達氏  
方向ヲ誤リ陸羽ノ諸藩ヲ合從シ以テ



王師ニ抗スト雖モ永ク其盟約ヲ守ル  
能ワス不日ニシテ悔悟伏罪シ從モ亦  
隨テ解ク朝廷依テ伊達氏ノ封ヲ削ル  
ヲ以テ藩主亦祿制ヲ變シテ士族ノ祿  
ヲ減少ス此藩ヲ先ニ大藩ヲ以テ天下  
ニ誇リ他藩ヲ蔑視シ其勢甚強傲ナル  
ニ似タル氏士氣柔惰ナルヲ以テ其初  
王師ニ抗スルモ不日ニシテ降伏シ其  
降テ王師ノ先鋒トナルモ死力ヲ出シ  
テ戦功ヲ立ル能ワス是概シテ其士氣

ト振ハサルヲ證スルニ足ル故ニ一朝  
事アリト雖モ緩急其用ニ供スルニ足  
ラス然レハ縱使又強頑ノ徒アツテ之  
カ煽動ヲナスモ亦之ニ應ニテ大患ヲ  
為ス能ワサルベシ蓋シ一般ノ情態勉  
強事ニ耐ルノ心ナク敢テ世上ノ風波  
ニ関セズ安穩一生ヲ了セシトスルニ  
アリ然レハ戊辰ノ役ニ當リテ嚆兵隊  
ト稱シ士氣ノ振ハサルヲ憤リ大ニ慨  
歎セシ者數百名アリテ或ハ戦地ニ憤



死シ或ハ賤地ニ脱去セシナリ此徒ノ  
今ニ存在スル者ハ亦以テ用ルニ足ル  
ベシ其他ハ前條ニ陳述スル情態ナリ  
ヲ以テ往日佐賀縣下ノ動搖アリト雖  
モ一人ノ其顛末ヲ詳ニスル者ナシ是  
又士族ノ心ヲトスルニ足ル然リト雖  
モ近方ノ地若シ或ハ獨立王命ニ抗ス  
ルモノアラハ該縣士族ノ中トイハレ  
一二ノ之ニ應スルモノナキヲ保ツア  
タリザルベシ

縣下地理山岳少カラスト雖モ亦  
耕地數萬頃アリ米ヲ産スル甚多  
秋收ノ際縣下人民一年ノ糧ヲ除  
キ之ヲ他ニ鬻クト雖モ人民大率頑  
愚商事ニ疎ク鬻賣ノ際各地ノ物價  
亦比較ニ利益ヲ計ル以テ知ラス故ニ  
往々奸商ノ策ニ陥ルモノ自ラ之ヲ知  
ラサル者アリ然レモ其中或ハ狡黠  
ニシテ相欺ク力如キ者アリ頃者石  
代貢納ヲ許サレ、ヤ人民競テ全納



セントス時一ニノ奸商此際ニ乘  
シ陰ニ其奸謀ヲ逞クセントシ昨年  
貢納ノ期ニ至リ商某等一ニノ區長  
等ト謀リ人民ニ代リ既ニ縣廳ニ金  
納シ後日ニ至リ平均相場或ハ些少  
ノ増價ヲ以テ現米ヲ買得セント約  
セシニ縣官モ其所為ヲ知ルト雖モ  
貢納ノ淹滞セサルヲ以テ傍聽内ハ  
サルニ附ス農民モ暗ニ區長ト奸商  
ノ計算ヲ知ルト雖モ頃日ノ米價平

均相場ト相伯仲スルヲ以テ故サラ  
ニ知ラサルヲ為シテ區長人所為ニ  
任セ置タリ如何トナレハ若シ後日  
米價平均相場ヨリ下リタル時ハ此  
策ニ依テ貢納ヲ皆濟シ正米ヲ某商  
ノ手ニ授與セシ若シ米價騰貴セハ  
前ノ約定ハ區長ノ獨斷ニシテ我輩  
ノ知ラサル所タレハ吾儕ハ公布ノ  
通り金納セント人論ヲ主張スヘキ  
意見ナリシカ己ニ米價漸々騰貴シ



遂ニ一石五圓内外ニ及ヒタルヲ以  
 テ前條ノ如ク農民等眾ヲ區長ニ歸  
 シ直ニ金納セシメテ主張セリ是ヨ  
 リ大ニ爭論ヲ生シ區長ノ内或ハ適  
 逃セシモノモアリ或ハ農民ニ謝罪  
 状ヲ出シタル者モアリ卓カ彼ノ地  
 ヲ焚スル迄其結局ヲ聞カサリシナ  
 レ氏多分半ハ金納半ハ米納ニテ之  
 ヲ區長ニ任スルノ方ニ決スベキト  
 ノ風説アリタリ此説實際ニ聞ケリ之

是等ノ事畢竟縣官ノ意ヲ施政ニ用  
 ヒサレハ教ス所ニ生シテ其政務ニ  
 於ル當ニ止ムヲ得サル事ノミヲ施  
 為シ視民猶傷ノ心アルナリ且布  
 告書ノ掲載等至テ少ク政令下ニ貴  
 徹セズ故ニ人民縣官ヲ譽ル者モ十  
 分又毀ル者モ十シ然レテ今ノ冬事  
 其人ト為リ其任ニ堪ヘサルニ非ス  
 ト雖モ承任ノ意ナキヲ以テ百事心  
 ヲ用ル自ラ薄カラサルヲ得ス若シ



此縣下ノ風俗ヲ登正シ王化ノ洽  
カラシムヲ欲セハ今ノ冬事ヲ權令  
ニ任シ永任ノ心ヲ起サシムルカ或  
ハ新ニ令ヲ置キ其人ヲ得ルニ非レ  
ハ甚難ナルヘシ若シ棄テ問ハス因  
循歲月ヲ経ルニ至ラハ民心放縱風  
俗頽敗ニテ收拾スベカラサルニ至  
ラン豈心ヲ用ヒザルベケンヤ

山形縣

該縣下ハ上ノ山天童新莊等小藩ヲ合

凡一縣トナセシニ依リ士族ノ風各一  
ナラス頃日秋田縣下横手院内湯澤三  
所ニ土着セル旧秋田藩ノ士族凡千人  
許潜ニ佐領暴徒征韓封建等ノ説ニ雷  
同シ旧新莊藩ノ士族ヲ鼓舞シタルヲ  
以テ新莊ノ旧大冬事ヲ奉職セシ竹村  
勝行等西國ノ暴峯若シ東國ニ波及ス  
ルアラハ機ニ乘シ事ヲ祭セント企望  
スルノ念アツテ久ク廢止セシ刀劔ヲ  
帶シ行歩スルニ至レリ然レモ其志ノ



由テ生スル所封建ノ旧ニ復シ世祿ヲ  
得テ子孫ノ生計トナスノ私心ニアル  
ヲ以テ事ノ成敗ヲ願ヒス順逆ヲ誤ル  
ノ論ニ非ズ是ノ時ニ當テ該縣中屬清  
水常鐵ナシ者新庄支廳ニ左勤ニ區長  
吉高謙邦等ト共ニ勉勵説諭セルニコ  
ソテ士族輩大ニ畏縮シ痛悔スル者亦  
少ナカラスト云ヘリ蓋シ該縣官吏ノ  
意士族ノ愈其説ヲ主張セント欲スル  
時ハ速ニ巨魁ノ者ヲ縛セント密ニ探

偵ヲ入レ置シ由ナリ  
權令閣口氏大下為シ親教ニシテ心  
取ヲ民政ニ用ル篤カラサレニ非ズ  
只其民心ヲ失ハシテ願慮スルノ念  
和切ナレニ依テ十分ニ令旨ヲ出シ大  
事ニ相弊ヲ瘡革シ斯民ヲ開明ニ誘導  
スルニ至ル亦難カレ入シ故ニ政事  
業ノ施設常ニ寛ニ失スルノ意アリテ  
所出シ滞滞ナキ能ワス  
置賜縣



該縣ハ旧米澤藩ノ領地ニシテ士族薄  
禄ノ者多シ故ニ旧藩ノ時ト雖モ一般  
農商ノ業ヲ営ムコトヲ許セシテ以テ傍  
ヲ耕織ヲ為ス者多シ是ヲ以テ禄制變  
革ノ際ニ當ルモ強ク困窮スト云フニ  
非ス士氣元素強壯ト稱セシ國ナレバ  
庸耻ノ心寡ク唯利是行クノ凡アリ戊  
辰ノ役トイハレ向背一ナラス又蠢愚  
ニシテ今日ノ時勢ヲ通曉スルモノ少  
ク頃日佐賀縣下動搖ノ際士氣少シク

萌起シ或ハ帶刀スル者百五六十人其  
内縣廳へ出願シ銃器ヲ借用セシト不  
此者アリ其言ニ曰ク戊辰ノ役方向ヲ  
誤リシハ眾時勢ヲ知ラサルニ坐ス故  
ニ今日リ後國家事アルノ日ニ臨ンテ  
ハ吾輩誓テ之ヲ先鋒トナリ報國勤王  
屍ヲ原野ニ暴シント密ニ考ルニ此輩  
一時此ノ如キ説ヲ唱ルモ素志常ニ此  
ニ在ルニ沐ス故ニ陸羽ノ中万一方向  
ヲ誤リ事ヲ起ス者アル時ハ該縣士族



ノ中必其峯ニ應スルモノ少ナカラザ  
ルヘシ如何トナレハ固ヨリ時勢ニ暗  
キカ故ニ方今ノ政令ヲ腹誅スルモノ  
亦多ケレハナリ然レモ旧藩ノ家老職  
ヲ勤メシ千坂某ナル者ハ一藩士族ノ  
心ヲ得タリシ者ナルカ頃日西洋ヨリ  
帰國シ頻りに開化ノ説ヲ唱ヘテ大ニ  
頑固ナル士族ノ論ヲ説破セリ既ニ卓  
力該縣ニ到ルノ前數日酒田縣士族庄旧  
藩士族一兩名該縣士族ヲ鼓動セシカ為

仁未テ遊説セシトセシナレモ此ノ如  
キ如芽ニニ千坂某ヲ説得スルニ非レ  
ハ行<sub>ハ</sub>難キヲ以テ千坂某ノ開化説  
ヲ唱ルヲ聞キ遊説ヲ果サスシテ去ル  
ト前條ニ記スル如ク該縣士族ハ首ト  
シテ事ヲ起スノ力ナキヲ以テ甚害ヲ  
ナサストイハレ又以テ頼<sub>ト</sub>スルニ足  
ラサルナリ  
縣廳ノ体裁昨年夏迄未夕旧藩  
廳ノ姿ヲ存シ新縣ノ体裁ヲ為サ



大藏書  
リシカ関義臣赴任以来専ラ心ヲ縣  
廳諸規ノ整理ニ用ヒ頃者大ニ新縣  
ノ体裁ニ変セリ此際ニ當リ関氏ノ  
心ヲ用ル甚々切ニ事ヲ務ル弥疾シ  
故ニ屬吏等過激ヲ以テ之ヲ目スル  
モノ少ナカラス亦諍訴隨テ百出ス  
然レモ関氏非常ノ断アルニ非レハ  
旧制ヲ改革シテ之ヲ整理スル能ワ  
サルヘシ蓋シ関氏ノ登廳スル常ニ  
諸官負ニ先夕午前八時ヲ過キス

其退クヤ常ニ星ヲ戴クトイヘリ是  
ヨリサキ縣官常ニ專断ノ處置多ク  
官林官地等怨ニ人民ニ披此セシ等  
ラノ事アリトイヘ氏其蹤跡明瞭ナラ  
ス故ニ関氏ノ之ヲ矯正スルニ當テ  
人民或ハ不平ヲ抱ク者亦少ナカラ  
ス然リト雖モ是亦止ムヲ得サルナ  
リ関氏赴任以来月ヲ関スル未夕多  
カラス施政ノ日未夕久シカラス然  
シテ首ニ縣廳諸規ノ釐革ヲ為スヲ



以テ未タカヲ民事ニ用ルニ暇アラ  
ストイハ氏其人トナリ吏事ニ明カ  
ニ且身ヲ以テ衆ニ先ニシカラ縣政  
ニ尽スヲ以テ永ク此任ニ在ラシメ  
ハ漸次着手ノ順序ヲ得諸事ヲ脩理  
シ民心暢和ノ期ニ至ル又疑ヒヲ容  
レサル所ナリ

若松縣  
該縣士族過半往キニ斗南ニ移住セシ  
テレ氏其中少ク志アル者ハ移住セサ

リシ者モアリシカ已ニ移住セシ者モ  
漸々旧ニ復シ縣下ニ來歸セリ蓋シ戊  
辰ノ役方向ヲ誤リ大ニ食禄ヲ減制セ  
ラレシニシテ以テ窮乏益甚シク或ハ土  
ニ席ニ星ヲ仰テ起卧スル者アルニ至  
ル然レ氏士風未タ地ニ墜ス往日汚名  
ヲ蒙リシヲ慨歎シ今ヨリ後國家若シ  
事アルノ日ニ臨シテハ該縣峯テ往日  
ノ耻ヲ雪カントスルノ志切ナリ頃日  
物議囂然佐賀騷擾ノ間縣下ニ達スル



大藏書  
中士族輩先ツ諸有志ト會議シ假令ヒ  
何様ノ事アル氏廷議ニ背キ事ヲ先ニ  
ス可ラスト誓ヘリサレ氏縣地ヨリ東  
京ニ寄留セル書生輩凡五六百名アレ  
ハ此輩ノ中或ハ諸家ノ浮説ニ迷ヒ方  
向ヲ誤ル者アルモ計ルヘカラサルヲ  
憂慮シ又長岡某ナル者久シク東京ニ  
在リ且九節辺ヲ歴遊シ頗ニ征韓ノ説  
ヲ主張シ諸生輩ヲ煽動スルノ報ヲ聞  
キニヨリ再ヒ諸有志ヲ會シ遂ニ方向

大定ノ盟約ヲ為シ佐川某原田某ハ戊  
辰ノ役モ隊長ヲ勤メ人望ヲ得シ人々  
ルヲ以テ東京書生輩ノ方向ヲ一ニセ  
シカ為テ此兩人ヲ東京ニ趨カシメ夕  
リ此兩人ノ中一人アル時ハ獨リ東京  
ニ在ル書生ヲ壓制スルノミナラス又  
斗南ヨリ来ル者アリ氏其徒ノ論ヲ挫  
折シ之ヲ鎮靜スルニ足ルヘント初メ  
諸有志ノ會議スルヤ澤權令切ニ此ニ  
從事シ右ノ兩名ヲ出京セシムルモ權



令ノ尽力亦其半ニ居ルト云ヘリ此時  
ニ方ヲテ大庭某等ハ首トシテ縣下ノ  
士族ヲ説諭スルニヨリ士氣稍振ヒ若  
シ陸羽ノ地廷議ニ抗シ上ヲ犯ス者ア  
ル井ハ必王所ノ先鋒トナリ昔日ノ恥  
辱ヲ雪カント盟ヒシ由其後原田佐川  
等官ニ任セラレシニ因リ縣下ノ士族  
輩大ニ得意シ勤王ノ志益固結スルニ  
至レリ故ニ爾後万一他ヨリ来テ此輩  
ノ煽動誑惑スル者アリ氏決シテ之ニ

應スル等ノ憂アルヲナシ  
澤簡徳赴任以來大ニ心ヲ民政ニ盡  
シ除害興利ノ術ニ於テカヲ用ル尤  
モ務ム人民固テ以テ望ヲ歸シ士族  
等亦隨テ心ヲ傾ク是ヨリサキ縣官  
開化ノ速カナラシク欲シ凡俗人情  
ノ如何ヲ不問頻ニ命令ヲ下シ堂々  
ノ民ヲシテ忽文明ノ俗ニ變セシメ  
ントス其甚シキニ至テハ人民互相  
ノ私事ニ至ルモ官ヨリ之ヲ指揮シ



却テ民權ヲ妨ルニ至ル澤氏其弊ヲ  
矯正シ俗ニ隨テ之ヲ導キ且政府ノ  
施政權ニ屬スル者ト人民ノ自由權  
ニ屬スル者ト其當然義務權利ノ區  
域ヲ明カニシ民ヲ各自主ノ權  
ヲ得セシメントス故ニ民ノ之ヲ喜  
フ尤深シ而シテ該縣下ハ山岳四周  
シ一水總ニ山間ヲ環流シテ越後ニ  
至リ聊カ舟楫ヲ通スト雖モ上流時  
トシテ覆舟ノ難アルヲ以テ運輸ノ

便少キニヨリ土產ノ物價常ニ賤ク  
他ヨリ運入スル所ノ物價最貴シ澤  
氏深ク之ヲ憂ヒ新ニ山ヲ開キ道ヲ  
通スルノ議ヲ興シ業已ニ上中ニ及  
スルニ至リ故ニ此人ヲシテ永ク此任ニ  
在ラシメ積ムニ歲月ヲ以テセハ漸  
次人民營業ノ基礎ヲ起シ該縣ヲシ  
テ富有ノ地タラシムルヤ必セリ  
酒田縣  
該縣下旧大泉藩士族ノ中嘗テ旧薩藩



某々ト死生存亡ヲ俱ニセント盟約セ  
レテアリト唱ル者アリ未夕其説ノ虚  
実ヲ詳ニセスト雖モ昨年十一月中旧  
冬議等辭職ノ事件此縣ニ傳聞スルニ  
及ニテ冬事松平親懷權冬事菅実秀大  
属和田助弥等密議ノ上酒井吉之丞原  
門阿堂アルヲ得家ニシテ士族其他兩人ノ士  
族ヲシテ晝夜兼行鹿見鳴ニ遣リ西郷  
氏ノ去就及方向ノ如何ヲ尋子シメシ  
ト二月二十日頃鹿見鳴縣ヨリ歸縣シ

僅ニ數日ヲ経テ再ヒ出京セリ西郷氏  
ノ返報詳カナラズトイハレ或ハ唱フ  
其輕率ヲ戒メシト或ハ唱フ其機未夕  
来ラスト答ヘシト其戒メシト唱ルハ  
蓋シ真ナラン抑該縣ノ政体多クハ旧  
貫ニ仍リ士族ノ陋習只一ノ酒井家ア  
ルヲ知テ朝廷ア此ヲ知ラサルニ似タ  
リ是帝ニ在廳權吏ノ薰陶然ラシムル  
ノニナラス曾テ戊辰ノ後官軍庄内城  
ヲ攻撃スルモ人強兵少ナク弱兵多キ



カ故ニ之ニ抗戦シ僥倖ニシテ勝利ヲ  
得ルノ多ヤリシニ依テ官軍ノ偶々柔  
弱ナリシヲ知ラス實ニ我カ士氣ノ勇  
烈ニ出ルトコ口他ノ得テ及フ能ワサ  
ルナリト常ニ自負スルノ心アリ而シ  
テ方今時勢ノ変遷スルヲ知ラサルヲ  
以テ往自陽ニ兵ヲ解クト雖モ陰ニ器  
械ヲ接其ニ緩急事アレハ即チ隊伍ニ  
編セン為メ隊ヲ改テ其組其組ト稱シ  
開墾ニ從事セシム其開墾ニ從事セシ

ムルモ其組頭ハ則チ旧隊長ニシテ其  
指揮動作モ或ハ喇吧ヲ以テシ或ハ太  
鼓ヲ以テシ宛然練兵ノ規制ニ異ナル  
トナク又其隊伍ヲ脱シテ他ノ業ヲ管  
コント欲スルモ之ヲ許サズ是其解兵  
セサルノ意思ヲ見ルニ是ル且昨年三  
四月迄ハ貫屬替ヲ出願スル者アルモ  
一切之ヲ許可セズ其甚シキハ之ヲ暗  
殺シ或ハ迫テ屠腹セシムルニ至ル而  
シテ士族ノ中農商或ハ他縣ノ者ト交



一 結ヒ 新聞誌等ヲ覽ル者ハ他ノ否サ  
 ル一黨ニ違ヒセラレズ是亦權吏ノ意  
 中ニ出ツ茲ヲ以テ新徴新整ノ兩組ヲ  
 始メ旧貫屬等ヨリ司法省ニ哀訴スル  
 モノ少ナカラス司法省ハ出訴ノ後未  
 裁法ノ連ヨラシハ大ニ沸騰ヲ生スベ  
 キヤノ形  
 縣下及別調ニ於ケル一モ實地調査  
 ノ方法ヲ以テスルニ決ス都テ各區  
 戸長ヲ廳下ニ招集シ旧籍ニ依テ

帳簿ヲ編集スルノ是ヲ以テ其名  
 田地アレ氏其實水損等ニテ田地十  
 キヲ以テ訴レ氏戸長之ヲ抑留ス故  
 ニ下ニ不平ヲ鳴ラス者少ナカラズ  
 去明治六年ノ租税米收納ノ節大藏  
 省金納云々ノ布達ヲ民間ニ達セス  
 旧ノ如ク穀納セシメ金十圓ニ四斗  
 八升俵米其外五十三俵ノ割  
 ヲ以テ大藏省ニ金納シ其實ハ本年  
 二月四俵ノ相場ヲ以テ賣却セシ故



民間大ニ沸騰シ民其顛末以不正ヲ  
司法省ニ訴シト欲シテ出京セシモ  
人往來之アリ但其金高及賣却年月  
日ノ如キ未ダ詳カナラサルカ故ニ  
捜探者ヲ残シ置タレハ不日其確報  
ヲ得ハ明子ナルヘシ此他民間ニ施  
為スルトコロトシテ抑制束縛ナ  
ラサルハナシ下情ノ憂苦推テ知ル  
ベシ

此等ノ事ハ其本質等ニテ其  
弊害ノ甚多クシテ其



Faint vertical text columns within a blue border, likely bleed-through from the reverse side of the page.